

修士(経済学)ディプロマポリシー

国際開発学プログラム

修士(経済学)の学位課程における学修目標は、経済的概念と現代の世界経済の機能を深く理解した学生を養成することである。この目標を達成するために、経済理論、制度的枠組み、および分析手法に関する、理論的かつ実践的なカリキュラムを提供している。本プログラムは、絶え間なく変化する経済状況に直面している開発途上国や新興国の、政府省庁や主要研究機関で必要とされる専門的で高度な技能の向上を支援する。

国際大学学則で規定されている本学の目的と国際関係学研究科の教育研究上の目的を達成するために、国際開発学プログラム(IDP)は修士(国際開発学)の学位を取得するために必要な修了要件と学修目標を次のとおり定める。

<課程修了の要件>

在学期間に関する要件

学生は、修士課程に2年(6学期間)以上在学しなければならない。ただし、優れた業績を上げた者については、在学期間に関し、1年以上の在学にて、修業年限を満たしたものと認める場合がある。

授業科目の履修及び修了に必要な単位数に関する要件

学生は、IDPで指定された履修要件に従って、指定必修科目、選択必修科目および自由選択科目を履修し、必要な単位数を取得しなければならない。修了に必要な単位数は、修士論文を提出する場合は合計40単位以上、研究レポートを提出する場合は合計44単位以上とする。

単位認定

コースシラバスに明記された評価項目について審査したうえで、最終評価スコアが100点満点中60点以上であった学生に単位を与える。

修士論文/研究レポートの提出に関する要件

学生は、指導教員の指導の下で、審査基準を満たす修士論文または研究レポートを完成させ、期限までに提出しなければならない。

最終試験の要件

修士論文を選択した学生は、審査委員会が口頭により行う最終試験に合格しなければならない。研究レポートを選択した学生は、審査委員会が決定した実施方法により行われる最終試験に合格しなければならない。

GPAの要件

学生は最終学期の成績が確定した段階で、少なくとも2.5ポイント(4.0ポイント中)以上のGPAを取得していなければならない。

<学修目標>

修士(経済学)の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 現実の問題を分析するために必要な、ミクロおよびマクロ経済学の高度な知識
- 実証分析のための、統計、計量およびその他のデータ分析能力
- 学際的な知識を尊重し、経済学がいかにかに他の社会科学と関連しているかを認識する能力
- 最新の研究成果を経済問題の分析に応用する能力

スキル

- 経済学の概念を応用し、現実の経済的および社会的問題に経済学を適用する能力
- 経済問題や経済政策を分析するための戦略的思考能力
- データに基づいた実証分析を行うために必要とされる数学および統計学の知識
- 経済問題に対する適切な助言を政府および民間部門に行うことができるコミュニケーション能力
- あらゆる状況下でチームの一員として協力的に行動する能力

学術的態度

- 経済および社会問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ
- 経済および社会問題を理解するために、適切な分析力を適応する姿勢
- 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え
- 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度
- 経済学の知識を現実の経済問題の解決に用いる姿勢